



埼医FAXニュース

編集・発行 埼玉県医師会広報担当 松山 真記子 <http://www.saitama.med.or.jp/kaiin/faxnews/index.html>

都市医師会長会議速報<6月23日>

金井会長挨拶

今回の会長会議が役員改選後の第1回目都市医師会長会議ということになります。これから2年間よろしくお願いを申し上げます。

会長会議でも理事会でもそうですが、コロナの話ばかりが続いてまいりました。今日の資料にも出ておりますが、埼玉県の重症者ですけど、最近は重症者というのではなく1人であったり1人であったり、最も多い時でも2人という状況です。最近新規陽性者が少し増えてきたということで実効再生産数はプラスになっており1.01ということになっております。少し懸念材料ではありますが、重症者が出ていないということから考えると、あまり心配ないのではないかと考えております。国の分科会においてはステージ分類というのを以前は使っておりました。新規陽性者数、病床使用率などを組み合わせてステージ分類をしましたけれども、オミクロン株になってレベル分類を使う事としました。すなわち、ベッド使用率特に重症者がいるベッドの占有率を基準にすることになります。これを活用して欲しいと個人的には思いましたが、意外にも使われておらず残念に思っています。しかしながら、重症者は確かに少ないという状況があり、そろそろいろいろな規制を緩めても良いのではないかと感じております。そういうような状況になれば、診療・検査医療機関についての役割というのも終わってくるとも思っているところです。

明後日ですが、日本医師会の役員改選があります。松本吉郎先生が日本医師会長になることは確実だと考えております。以前より日本医師会に対して埼玉県医師会はかなりのところで協力をさせていただいております。今後さらに日医への協力を強めていきたいと考えています。松本先生が会長になると、日本医師連盟の委員長の仕事もすることになります。任期は会長を退いても日医連執行委員会が開催される7月までとなっていますけれども、中川先生が25日に委員長の権限を譲ると伺っていますので、松本先生が委員長も兼ねるということになります。そうしますと、自見はなこ先生の参議院議員選挙ですが、松本先生の最初の仕事と言う事になります。全国比例の参議院議員選挙の投票方法が非常に煩雑で、個人名または政党名ということが書かれています。自民党では政党名を書く人が非常に多く7割だと言われております。個人名を書く人は3割にも達しないそうです。「自見はなこ」と、医療関係者というより医師といつていいくのかもしれません、その中でどれぐらいの方が書いているかの推定でいくと半分だそうです。半分の医師ないしはご家族が自見はなこ、または羽生田たかし先生と書くけれども、あの半数は自民党と書いてしまうそうです。そうすると、例えば前回の自見はなこ先生は21万票を取りましたが、全ての人が自見はなこと書いてくれれば40万

票近くなると考えています。今一番重点的に取り組んでいるのは、そのところです。さらに支持者を広げるというのはありますが、それよりも自分たちがしっかりとまとまればというところがあります。17万3,000人の会員がおり、この人たちでしっかりとやっていければと思っております。これについては、医療に対する締め付けがますます強くなるという状況を考えれば、しっかりと頑張っていかなければならぬと思っています。先生方には大変恐縮ですけれども、地元にお帰りいただき、なんとしても自見はなこ先生をある程度のところまで上げていただきたいと考えており、ご尽力を賜りたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

〈新型コロナウイルス感染症対策会議について〉

会議結果をお知らせいたします。(詳細は県医HP掲載)

第80回 令和4年6月23日(木)午後1時50分～

常任理事会構成メンバー

県行政(保健医療部 関根ワクチン対策幹・ 加藤主幹・島田主幹)

金井会長; 本日も県の担当者に出席いただいているので、説明をお願いする。

島田主幹; 感染動向であるが、陽性者数については6月21日現在479名となっている。病床使用率は、即応病床使用率が13.7%、重症病床使用率が0.7%である。陽性率については、11.5%となっている。ファーストタッチ、入院調整等については、順調に推移している。後遺症外来医療機関の申し出状況は、前回より1医療機関増えて、169機関である。お盆期間中の診療・検査体制は、ゴールデンウィーク・年末年始と同様、特別な体制を構築する必要があると考えている。

関根ワクチン対策幹; ワクチンの接種状況は、6月20日現在で3回目接種が60.8%となっている。4回目接種はまだ0.1%で7月から高齢者の接種が本格化する見込みである。

お知らせ

第14回リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2022 川越

日時: 令和4年9月18日(日) 10:00～18:30

場所: 川越市産業観光館 小江戸蔵里広場 ほか

主な企画(予定):

小江戸川越ハートウォーク(川越の町を歩きます)

パネリセレモニー・エントリーティープルセレモニー

※問合せ先:

リレー・フォー・ライフ・ジャパン川越実行委員会事務局

TEL 049-235-0878 / 090-4387-6158

損害保険・生命保険のお問い合わせ・ご相談は

(有)埼玉メディカル

〒330-0062 さいたま市浦和区仲町3-5-1

TEL 048-823-9230 / FAX 048-823-9260

(2ページへと続く)

(1ページからの続き)

最近のトピックス**■医師会役員、議員ら1500人以上が参加
自見氏の総決起大会■**

参院選に立候補した日本医師連盟の組織内候補で自民現職の自見英子氏は24日、東京都内で総決起大会を開催した。自見氏は「日本の真ん中に子ども政策を置くということが医療、介護、福祉の現場にいる私たち一人一人の社会保障の礎にもなる」と述べ、支持を訴えた。大会には1500人以上が駆けつけた。

自見氏は2024年度のトリプル改定前の最後の選挙だと強調した。物価高騰などに懸念を示し、「2回ほど特例的な診療報酬の改定をしたり、公定価格を引き上げたりしなければ現場が守れないかもしれない」という戦いにこれから突入する」と訴えた。※1

■「一致団結し、より強い医師会をつくる」**日医・松本新会長■**

25日に行われた日本医師会長選で初当選した松本吉郎氏は定例代議員会後の記者会見に臨み、「新しい執行部の方々と一致団結して、新しく、そしてより強い医師会をつくりたい」と意気込みを語った。会員や医師の信頼に応えることができる医師会になるように努力することが、国民の信頼を得ることにつながるとの抱負も述べた。

松本氏は日医として力を発揮するには、組織力の強化が必要だと指摘。そのためには会員数を増やすこととともに、「全体としての力、質を高めていくことも必要」と強調した。具体的な取り組みとしては、常任理事枠を増やすことをあらためて検討課題に挙げた上で、「できた余力を組織力の強化や、政界、財界、関係団体などのコミュニケーションを図ったり、勉強をさせていただしたり、そういうところに力を注いでいけたら良いのではないか」と述べた。※2

■キャビネット全員当選は「本当に良い船出」**金井選対本部長・報告会で■**

25日の日本医師会役員選挙で新会長に就任した松本吉郎氏の選挙対策本部報告会が同日夕、東京都内で開かれ、関係者が松本氏の初当選を祝った。選挙対策本部長を務めた埼玉県医師会の金井忠男会長は、支援者に感謝を述べるとともに、新執行部が松本氏の考えていたキャビネット通りのメンバーになったことについて「本当に良い船出ができたと思っている」と喜びを表した。

報告会では、新執行部の役員全員が登壇し、今後の意気込みを語った。また、各ブロックの代表者も祝辞を贈った。東京都医師会の尾崎治夫会長は、中川俊男前日医会長が勇退を決めた後は、組織一丸となり役員選挙なしで参院選に集中することを望んでいたと述べ、前執行部の副会長2人が選挙に立候補したことについて「私はやはり、納得できない面があった」とこぼした。その上で、松本氏とキャビネットのメンバーが全員当選したことで「日本医師会は一つにまとまつた」とし、新執行部への応援を呼び掛けた。※3

■トリプル改定の財源確保、「喫緊の課題」**松本会長■**

【第152回日医臨時代議員会・所信表明(要旨)】昨日

の151回日医定例代議員会で、日医会長に選任・選定していただいた。代議員、会長選出馬を後押ししていただいた全国の多くの会員に御礼を申し上げる。医師会運営に当たっては、「地域から中央へ」「国民の信頼を得られる医師会へ」「医師の期待に応える医師会へ」「一致団結する強い医師会へ」を4つの柱として進める所存だ。

医師会活動で最も重要なことは、「現場からの情報収集」を十分に行い、医療現場の問題として取り上げ、医療現場からの声を十分にくみ取り、日医の会務に反映させていくことだ。情報収集には地域医師会との連携が不可欠だ。地方行政、国との情報交換や連携を基にして、地域から国へという流れをしっかりとつくりていきたい。医師会活動では情報共有、相互理解、そしてコミュニケーションが重要であり、これらを十分に行いながら運営していく。現場の声を直接伺うためにも47都道府県医師会に積極的にお邪魔したいと考えている。今後1年の間にぜひ、私どもをお呼びいただきますようお願い申し上げたい。

●参院選、「医師連盟の底力を」

世界に誇れる皆保険制度は何としても堅持されなければならない。また皆保険制度にはころびが起こらないように持続性を保っていかなければならない。

喫緊の課題は、次回の診療報酬、介護報酬、障害福祉サービス等報酬のトリプル改定における「社会保障財源の確保」だ。先ほど述べたような現場の声を結集し、必要な財源を確保していかなければならない。財政当局による厳しい医療費抑制策に対抗するため、さらには中医協でしっかりと議論するためにも、まずは目の前に控えた参院選で全国の医師会、医師連盟の底力を発揮することが極めて重要だ。※4

**■組織率低下や若手医師の入会促進「喫緊の問題」
松本会長■**

【日医代議員会・答弁要旨】組織率の低下や若手医師の医師会への入会促進は喫緊の問題だ。組織力を考える場合、まず会員数、組織率という観点が対外的にも重要なが、一方で、いかに会員が一致団結して同じ方向を向いて活動を行うかといった側面も重要な。

医師会の存在意義は、「国民の生命と健康を守ること」にあり、医師が患者・国民に奉仕する活動を行うプラットフォームとしての機能を有していると考える。こうした意義を理解していただくには、医師会活動への参画なくしては非常に難しい面がある。そのため、来年度をめどに卒後5年間の会費免除を実施し、日医が広く門戸を開いているというメッセージを発信していく。また、6年目以降のB会員の会費減額についても検証していく。その上で、若い医師たちと誠実に向き合って、その声に耳を傾けながら、国民医療の向上に向けた協働を呼び掛けていく。

さらに、医師会活動の原点である、全国の郡市区等医師会からも医療現場の実態を的確にくみ取りながら、地域の声を中央につなぐ中で、全ての医師の期待に応えられる医師会へと組織を一層強化していく。【猪口正孝代議員(東京)の代表質問に対する答弁】※5

(記事は〆イファクス ※1: R4.6.27号より抜粋)

*次回のFAXニュース送信は、R4年7月16日の予定です。